

# 新春に詠む短歌



福寿草ほつほつほつと顔を上げひかりを放つあらたまの朝  
新春といえども、ひんやりと空氣の冷たい朝、福寿草は、まるで顔を上げ背を伸ばしているように青々と輝いておりました。

マンションのつぎつぎ建ちゆくつくば街<sup>シティ</sup> 郭公啼きし森が消えゆく  
孫と保育園の帰り道、澄んだ声で鳴いていた郭公は何処へ行つたのか。発展していくつくばの街の森が削られていくのは寂しい。

蜜柑園筑波の坂道のぼり来て濃密さ味わう小春日の中

筑波の薬王院に平和を願い、北限と言われる筑波の蜜柑園にて、ぎつしり実る蜜柑を挽いで参りました。

おさな子の「ママ」と呼ぶ声向日葵の母なる顔がそつとふりむく

抱くと壊れそうな小さな赤ん坊だった子も、やがて、親のもとから離れる時が来る。親は命をかけて子を守り、子はその愛を全

井上 秀子

おさな子

四歳の女孫より届く年賀状「おめでと」の文字おどつて見える

やつと字がかかるようになった女孫からの年賀状は、判読不明

海老原鱸子

おさな子

元旦にパソコンのキー打ち初む新しき夢ふくらませつつ

年末、金婚の記念にパソコンを買った。福祉センターの指導を受けながら、キーボードに入力、新しい楽しみが広がりそうだ。

貝塚 高秀

おさな子

歌声で心搖さぶる歌手がいる ザわわざわわと戦を責めて

反戦を声高に言うのではなく、静かに寄せる波のように歌手に感動した。歌手には歌手の、私には私の目線で平和を願つていただきたい。

小松崎みづえ

おさな子

梢まで朝日の差せば小鳥らの金に輝き群れて遊べる

大潮を悠然と見晴らす風車の佇まいは人々を魅了する。霞ヶ浦 総合公園の湖畔沿いの風車はオランダ型だという。今年も暖かい春が来ると数多のチューリップがまわりを彩ることだろう。

福原 安栄

おさな子

図書室の窓の彼方に目をやればゆつくりまはる湖畔の風車

元旦に晴れると小鳥の声も新年を祝っているようで、一献どうだということになる。新春の酒は程よいところでやめると目出太沙も倍加するものと見える。

三浦清次郎

おさな子

戸締りに外に出づれば月上り核実験など関はり無きがに

1年の無事を希い、山頂から四方を拜すのが、年初めの行事となつてゐる。それも、久しく続いている。

松崎 國男

おさな子

地の果てに陽に浮き出でし富士を見つ筑波山頂に四方拜しいて

戸締りのために外へ出ると、十三夜の月が明るくぼっかりとまるで核実験など全然関係なき如く、平和を祈りつつ眺めました。

山口 節子

## おほらかに高らかに鳶初景色

見渡すかぎり一面に拡がった田の面の上空を、翼を抜け大きな弧を描きながら、悠然と舞う二羽の鳶、いかにも二〇〇七年の新春を寿ぐかの様に。

## 鴨も居て白鳥も居て大初日

誰かがメロディー板を叩いている。ベンチに座つた人は遠くの水平線を眺めている。元旦から釣り糸を垂れている人、湖の元旦。

## どの枝に結ばむ吉の初みくじ

拝殿で去年の無事を感謝申し上げ、今年も平和でありますように祈願する。さて今年の運勢は吉と出た。

## 茶湯始め懐紙彩る朝日影

躊躇から茶室へ入り掛物、活け花を拝見、定めの座に京菓子が出る。懐紙を膝の前に置く。ときに朝日が輝いて正月気分を創り出した。

## 遠見なる富士も筑波も初明り

除夜の鐘を聞くと、昇る太陽も何となく、淑気に満ちて神々しく有り難い。この太陽の下六十年続くこの平和をこれからも守つて行きたい。

## 青きもの揃え俎はじめかな

三つ葉、ホウレン草、葱などなどを取り揃え、今年も健康で過ごせる様、元旦の台所に立つて思う。

## 天恵の愛しきものに福寿草

福寿草が庭の隅に咲いて、毎年わたくしたち夫婦と新年の挨拶を交わしたが、今年は孤独となつた私のために哀愁の陰りを見せていた。

## 外國の人も拍手初詣

信仰心はともかく、近年見かけられる情景。きこちない拝礼の仕方が微笑ましい。

鮎川富美子

配達の單車の響き鏡餅

大久保秀夫

年神に供える鏡餅。鏡開きにはまだ間がある。たまたま近づいてきた郵便配達の單車。吉報かも知れない。鏡餅の裂け目にその響きが伝わる。

初めり水琴窟の闇ほぐる

狩谷 諭

透明感ある水琴窟の音。心に沁み入るような清々しさ。その明るさに象徴されるような一年でありたい。

追羽根を母と競いし日も遙か

沢辺栄子

晴れ着を着て母と突いた追羽根。いつの間にか夢中になつて…。それも遠い日になつてしまつた。母はもう居ない。あの軽やかな音が青空に蘇る。

初日の出八十路の坂を照しあり

白石文吾

元旦を迎える度に心が引き締まる。齡八十の坂にさしかかつて、いま初日を仰ごとのありがたさ。まだまだ若い気持ちで一日々を大切にしなければ。

初日さす紫峰すつきり湖の凧

関沢美江

初日の中の筑波山。いつも見慣れてはいるが、何と素晴らしい肉体と女体の山かたち。風もなく穏やかな日和は霞ヶ浦にもいっぱい注いでいる。

泣き顔に笑い重なり福笑い

堀越喜代子

目隠しをして目・鼻・口を置いていくゲーム。八の字眉、たれ目…とか。おやおや泣き顔が…。でも、笑い出した。一家揃つての明るいお正月。

頃合いの漬物盛りて小正月

高田智子

元旦の大正月と違つて十五日正月は氣楽。言わば農耕儀礼の予祝であつてみれば大掛かりな料理より見計らつて漬け込んだ漬物が一番。

白寿まで三年の母や花正月

涌井宏子

長命の母は明治生まれ。新年になつてあと三年で白寿を迎える。幾つになつても母には元気でいいと願う。餅花飾りの中の母の笑顔がいい。

飯田登美子

市川静江

井坂信之

矢野惣四郎

## 新春に詠む俳句